

波 紋

1987
新年号

一九八七年

”年頭挨拶“

森 信之

皆様、新年明けまして、おめでとうございます。一年の門出を迎え、心引き締まる思いの人も多いことと思います。今年も「ほう・れん・そう」で出発したいと思えます。年末に木村営業部長より「報告・連絡・相談の経営学書」の「ほうれんそうが会社を強くする」という題名の本をもらい読んで、ほうれんそうは、水と肥料がなければ育たない、そして「水」というのは社内の人間関係に相当し、水分がなければ植物はみずみずしさを失い、成長するどころか枯れてしまいます。



又、「肥料」は給料であり、十分な給料や賞与がなければ仕事に全力を投入出来ないものである。と書いてありました。森松社内においても、嫌な情報、良くないデータも、正しく上に伝えられる人間関係を作り、「ほうれんそう」を立派に成長させるようにしましょう。勿論「肥料」も、欠かしません。

62年カレンダー

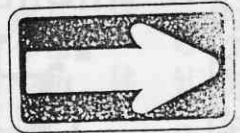
62年度の年間休日は下記の通りです。
(1) 原則第二土曜日は休みですが繁忙期は出勤とし、他の月へ振り替えとします。
(2) 3月7日は慰安旅行のため休日。

1	日	月	火	水	木	金	土
	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛
2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
6	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

お取引先様にはなにかとご不便をおかけすることがあるかと存じますが宜しく御協力賜りたくお願い申し上げます。



一年の計は元旦にあり

恒例仕事始め書き初め!

明けましておめでとうございます。

納品書を机の上に、置いたままの人がいる。納品書あるいは仮伝票を持っていかずに、品物を置いてくる、しかも置いてきた事を忘れてしまう人もいる。従って無償で差し上げる事になる。

無線で担当者に伝えるのを、「もしもし」と呼び出してからしか、用件を伝えない。つまり伝え方が分からない人がいる。

声を大きく確実に伝えてくれ、というのに口の中で、もじよもじよ云ってる人がいる。特に出張からT E Lをするのと、何て感じの悪い会社かと思う。

私が思うんだからお客様もそう思っているに違いない。

気配りとか常識以前の問題である。ある会社の新入社員の話で上司が、伝票を渡し、これを持ってってくれと云って、お客様に持って行ったその新人は、上役の命令を確実に実行した伝票のみを持って行って、品物を持って行かなかつた。これは本当にあつた話である。

ちよつと怒ると会社を休んじまう人もある。

一体、何だと思ってるんだ!

給料を得ている限りプロだろ。お客様は嘆いている。森松の部長の程度の悪さを。

◆ 継続は力なり

◆ 夜間大学へ行く

◆ 年間六十冊以上読書

◆ 自分の出した目標額100%達成

◆ 毎日伝票処理

◆ 売れる商品を三点以上考える

◆ 迅速な処理・時間を大切に

◆ 年間新規取引先開拓十五件

◆ 配達段取りミスをしな

◆ 年間新規取引先開拓二十件

◆ 良き先輩になる

◆ 和を持って仕事に対する

◆ 一人前の営業になる

◆ 新製品大当り

◆ 一転

森 信之

木村英利

稲葉友昭

横山敏秋

光田昭男

牧野光昌

山口隆弘

孫田邦彦

大橋康成

安井浩二

西田聖一

下垣紀一

岩間正美

時見賢二郎

伊藤郁二

◆ 事務の能率アップの為良いと思った 森 ちか
ことは、どんどん実行に移す

◆ 日々新しく 橋本正子

◆ 思いやる心 永井しるゑ

◆ 時間を有効に使う 富田美千代

◆ 電話の対応は大きな声でハキハキと 伊藤ちはる

◆ 健康第一 梶田祐子



メーカー紹介 理研ビニル工業未開

都築勇夫

当社は戦前の理研産業団の流れを汲み昭和二十六年三月に、塩化ビニルコンパウンド(中間原材料)メーカーとして設立され本年で三十五周年を迎えました。人にはよくビニールと間違えられますが正式に理研ビニル工業(株)と間を伸ばしません。当初より塩化ビニル樹脂の加工を主体とし、コンパウンド・カレンダーフィルム・押しフィルム三部門が事業の柱であり、とりわけ主軸であるコンパウンドは我が国のみならず世界最大の生産能力を持っています。

現在は産業構造の変化、ますます進展するニーズの多様化と高度化、という新たな合成樹脂産業の中で塩化ビニル以外の樹脂にも積極的に手掛け、樹脂の総合加工メーカーを目指しています。

貴社とは、当名古屋営業所が開設された翌年の昭和十五年に押出フィルムを案内してからか付合いが始まりましたが、取引開始は遅く、リケン・クリスタルシャッターにて六十年秋より始まりました。

当社押出部門は、機能性の高い各種新製品を積極的に開発し、理研ビニルならではの配合・混練の技術、そして二十年にわたって蓄積してきた製造ノウハウにより、ユーザのニーズに対処できる新製品を開発していくつもりです。現在軟質と硬質の食品用非食品用フィルム、厚みも二十ミクロンから二ミリまでと巾広くありますので末永いご愛顧をお願い致します。

最後に貴社発行「波紋」を毎号おくりたい。だき、楽しく読ませていただいております。感謝すると共にお礼申し上げます。

会社概要

資本金 二十七億円

従業員 八百三十名

事業所 東京本社・大阪支社・名古屋・福岡
山台営業所・三重・岡部・蒲田工場

入社十五年目の抱負

森松へ入社して、早十五年目。

入社当時の思い出も遠い昔になってしまいました。

当時会社は、中区錦にあり全員で十名程だったと記憶しています。毎週月曜日には、朝食会をやりながら、打ち合わせをしていたと思いがす。要町倉庫(現在の透明倉庫)が畑の真ん中に一軒たっていて、そこで裁断の手伝いをやったのが、初めての仕事でした。

その後、錦より要町に会社が移転し、仕事の内容もずいぶん変わりました。先ず、生地在庫商品が多くなり、製造でもビニールロッカー、デスクマットの加工が中心になり、郡上へ一週間に三回は、材料を配達していました。今考えると、自分にもあんな体力が有ったのかと、感心するしだいです。

やがて、若い人達も次々に入社し、一番若かった自分も、いつのまにか中年になってしまいました。十五年を振り返ってみると、この間休んだことは二、三日だと記憶しています。これも森松の良さが自分を大きく変えてくれたと思う。今後とも、自分の持っている力を、精いっぱい生かしたい!

横山敏秋



入社十年目の抱負

十年ひと昔と言われますが、現在考えてみると全然昔と感じないのです。ただ自分の娘を見ると、年月が経つのが早く思われます。十年振り返ると、私も私なりに考がえ方、その他もろもろ(給料)が、えらく違うと思います。

又、十年経って一番良かったと思うのが、御客様・仕入先様から光田君と声を掛けて頂けるようになった事なのです。今年で十一年目になるのですが、仕事の内容がなかなか自分の考えているようになりません。

今年も少しでも自分の考えている事を、実行したいと思えます。会社の皆さん協力を御願致します。光田昭男

五年目の抱負

五年目。一つの節目を迎えた訳ですが、これ位になると社内、業界の事も、ひと通りわかってきた感じがす。しかし、その反面、マンネリ、惰性になりがちなの頃です。するとミスなどが発生しお客様には迷惑はかけるし上役からは厳しい言葉が返って来ます。でも、めげません。失敗を恐れず、チャレンジ精神で行きます。ダメでもともと、当たってくだけろ。です。自分の力量、ワク内に拘らず、初心のあの頃、新規で初めて注文をもらった時のあの感動を忘れずやって行きたいです。まだまだ半人前の私ですが周りの皆さん御指導の程宜しくお願致します。安井浩二

△今月の社内行事

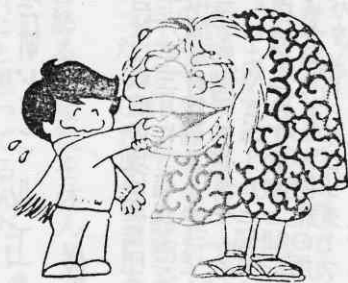
一日～四日 休業

五日 仕事始め
新年の目標を「書き初め」

十日 営業・事務・合同連絡会議
午前八時より

二四日～二五日
スキー同好会
母袋スキー場

三一日 モーニング・スクール
午前七時半より



ひとと日合った
その日から

この言葉、新人類の人にはもう古すぎるの
かな。早いもので名古屋に来てから八年になります、
九州育ちの(長崎)私には、名古屋はとて
遠く感じました。結婚しても九州からは出た
くないと思っていました。どこでどう間違
ったのか来てしまいました。
名古屋に来た当初(大高町) 右も左も解らず
出かけていき、帰る道を迷ってしまいうろ
ろした事もありました。
又、田舎もので何も知らない私は、まんまと
欺かれて、高い消火器を買わされたり(九八
〇〇円) 家へ来る人来る人(セールス)皆
応対してました。主人から注意され、なん
て怖い町なんだろうと思って、カギを掛け家
の中でじっとしていた事もありました。
主人は朝早く仕事に出かけて行き、帰ってく
るのはいつも九時すぎ、待っているのはとて
も寂しいことでした。
どうしてこんな遠い所に来てしまったのだろ
うか、来なければよかったと泣いた事もあり
ました。
名古屋には友達もいないし、夫婦げんかして
「出て行け」と言われた時、何処に出ていこ
うかしらなどと思ったこともありましたが、
今は子供も出来、自分にとって強い味方が出
来たようです。
しかし、心から尊敬する人の言うことは、素
直にきくものだと思います(勿論、敏秋さん
子供たちは、親が自分をどれほど可愛がって
いるのかというよりも、親の生き方を見て育
つものだと思います。だから親としては、子
供たちの期待に添うように、少しでもがんば
っていききたいです。
横山礼子

※クイズコーナー※

十二月号正解と正解者発表

- a = バドミントン
- b = バレーボール
- c = タクティク
- d = バスケット
- e = マラソン
- f = ケンドウ

- 名北ビニール様
- 宮岸礼子様
- 竹内治子様
- 芝山啓子様



編集後記

あけましておめでとうご
ざいます。皆様それぞれ思
い思いの期待も新たに新年
を迎えられた事とおもいま
す。
森松恒例、新年の書初めを
御紹介しました。この一年
各自の目標に向かってがん
ばっていきます。よろしく
御協力下さい。
二度目の新年号を迎えた
。波紋マンネリになるこ
となく常にフレッシュな紙
面へとファイイトいっばいで
す。
この新年号から社員の家族
の方による、我が家の事件
簿、他身近な事を寄稿して
いただくコーナーを設けま
した。原稿用紙が届きまし
たら、お気軽にお寄せ下さ
い。ささやかなお礼も用意
致しております。よろしく
お願い致します。橋本正子

編集発行者

森松株式会社

発行責任者

橋本正子

昭和62年1月1日

第 19号